

<b>症例 21</b>	<b>実熱証瘀血の症例 — 頭痛とのぼせに桃核承気湯</b>
--------------	--------------------------------

**症例**：46歳，女性。

**主訴**：頭痛，のぼせ感

**現病歴**：11年前に子宮筋腫にて子宮全摘。7年前に腸管癒着による腸閉塞手術の既往がある。1年ほど前から主訴が出現し，3カ月ほど前から悪化をみた。本人は既往の子宮筋腫や腸閉塞は子宮がんであり，主訴はがんの全身転移ではないかと不安となり婦人科を受診したが，症状が改善せず来院した。

**来院時の症状**：週2～3回の顔面ののぼせ感，発汗と嘔気を伴う拍動性頭痛，口内乾燥感（口燥感），不眠，日中の頻尿と残尿感，無気力感と全身倦怠感がある。若い頃から便秘気味で，常に腹部脹満感がある。2～3日に1行の兔糞便で残便感がある。

**現症**：身長150cm，体重60kg，血圧146/86mmHg。顔面・頬部に赤黒いシミ。唇は軽度乾燥し紫色。薄白苔。腹診で軽度膨満，左腸骨窩に圧痛（少腹急結），下肢皮膚全体に細絡を認める。

**経過**：桃核承気湯を投与したところ，3病日目より頭痛・のぼせ・発汗は消失し，大便是1日1回となった。7日間の投与で不眠・腹部脹満感・口内乾燥感は軽快し，1カ月の投与で精神的にも安定をみたので廃薬とした。

**解説**：本例は更年期障害の症例である。のぼせ感・口燥感・頻尿・腹部脹満感などの自覚症状，下肢細絡・紫色の唇・少腹急結などの他覚症候は，瘀血によく認められる。加えて2回の手術の既往歴がある。手術の既往があると瘀血になりやすいことが知られている。これらより，本例は手術が原因となった瘀血の症例であると考えられた。

方剤の選択にあたっては，虚実寒熱などをさらに明確にしていく必要がある。寒熱では，のぼせ感・便秘・口燥感などは熱症状であり，寒症状はない。虚実では，倦怠感と自汗という一見して虚証の症状は

図3-10 症例21の病態

のぼせ・口燥感・頻尿・腹部脹満感・  
下肢細絡・紫唇・少腹急結

瘀血

2回の手術の既往歴	……	瘀血になりやすい。本例の原因
(寒熱) のぼせ・発汗・便秘・口燥感等	……	熱証
(虚実) 倦怠感・自汗	……	一見して虚証
┌ のぼせに伴う発汗 └ 倦怠感	……	熱証による発汗
	……	見せかけの症状。瘀血のため

あるが、発汗はのぼせに伴うもので、虚証の汗とはいえない。虚証の発汗とは、労働などの生体の活動で出現するものであり、いわゆる「人より汗をかきやすい」状態をいうからである。

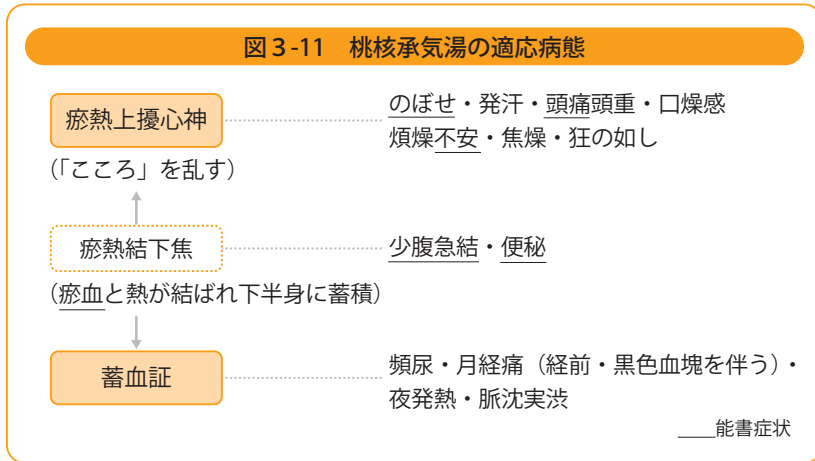
以上から、本例は瘀血の邪に熱症状が加わった実熱証が中心の病態であろう。倦怠感は、このために起こった見せかけの症状であると考えてよい。1つの症状にとらわれず、全体的・総合的に考えていくことが重要である。

筆者の経験では、更年期障害のおよそ2分の1から3分の2は瘀血証であり、駆瘀血剤が頻用される領域といえる **文**。ちなみに、「血の道症<sup>†</sup>」とは、元来、東洋医学の言葉ではなく、女性によくみられる一連の症状をいう俗語であり、その範囲は瘀血より広い。

### ■桃核承気湯について

本剤は実熱証の瘀血に使用され、熱を冷まし瘀血を便などで下し、瘀血を強力に取り去る効能がある。基本的な病態は、下腹部（下焦）に蓄積した熱性の瘀血が蓄積したもので、これを「畜血証」という（下腹部の停滞場所には諸説ある）。このため、下腹部の脹満感や疼痛・便秘・頻尿・

図 3-11 桃核承気湯の適応病態



月経痛・血塊を伴う経血などが出現する。月経前や排血で軽快する月経痛も多い。そしてこの熱が上昇し、のぼせ・ほてり・頭痛・口燥感が出現する。夜間の熱感も多い。さらに熱が心神<sup>†</sup>を乱してこころが不安定となり、焦燥感・イライラ感・不安感などが出現した状態に使用される。脈は沈実洪脈がみられる。また細絡・舌下静脈の怒脹・少腹急結などといった瘀血の他覚症状がみられることも多い。

文 三浦於菟：更年期障害の漢方療法。漢方と最新治療 6 (2)：161-166, 1997

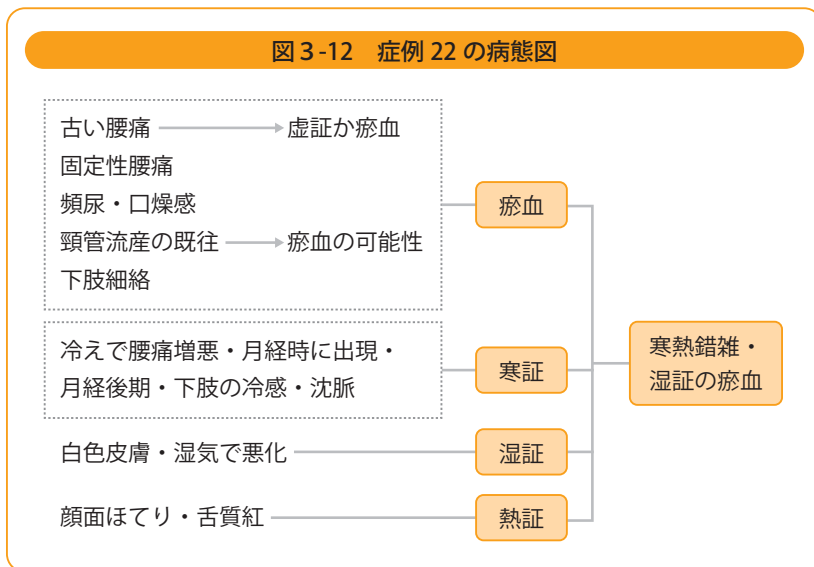
### 症例 22 | 寒熱湿証を伴う瘀血の症例 — 腰痛に桂枝茯苓丸

症例：39 歳，女性。

主訴：腰痛

現病歴：中学生のときにぎっくり腰を 1 回起こした。それ以後，ときどき腰痛が出現していたが，3 年ほど前から腰痛がよく出現するように

図3-12 症例22の病態図



なった。聞くと、主婦サークルでテニスを始め、それから腰痛が出るようになったという。2週間ほど前から腰痛が出現して治らず、199X年9月に来院した。

腰痛は固定性で冷えや湿気で増悪し、月経時にも出現する。月経は33～35日と、やや遅れ気味である。冬季は下肢の冷感とともに顔面のほてりがある。頻尿・口燥感がある。大便は正常。

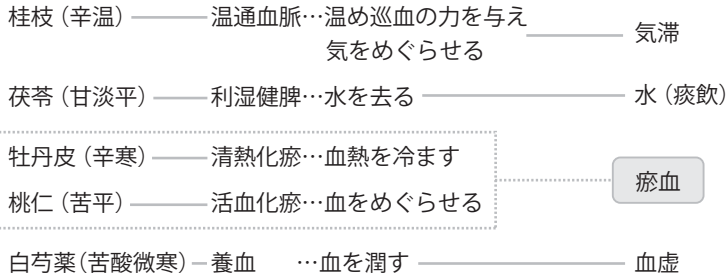
**既往歴**：7年前に頸管流産

**現症**：155cm，52kg。舌質紅・薄白苔・沈脈。白色皮膚で潤沢。下肢に細絡がある。

**経過**：桂枝茯苓丸エキスを投与したところ，2週間で腰痛と冷感・ほてりは軽減し，月経時の腰痛も消失した。

**解説**：腰痛の経過は長く，虚証か瘀血によるものが考えられるが，結論からいえば瘀血であった。固定性・頻尿・口燥感・下肢細絡，そして経管流産の既往から，瘀血と考えられるからである。さらにこの腰痛

図 3-13 桂枝茯苓丸の生薬構成



は、寒と湿も関係しているだろう。冷えや湿気で悪化するからである。月経後期も寒証のためかもしれない。白色・潤沢な皮膚も湿証であることをうかがわせる。ただし本例には、顔面のほてり・紅色舌という熱証も存在している。以上からすると、本例は寒熱錯雑と湿証を伴う瘀血証といえる（図 3-12）。

### ■ 桂枝茯苓丸について

桂枝茯苓丸は「治療の小剤」といわれる。その理由を検討してみたい。本剤は以下の生薬から構成されている（図 3-13）。

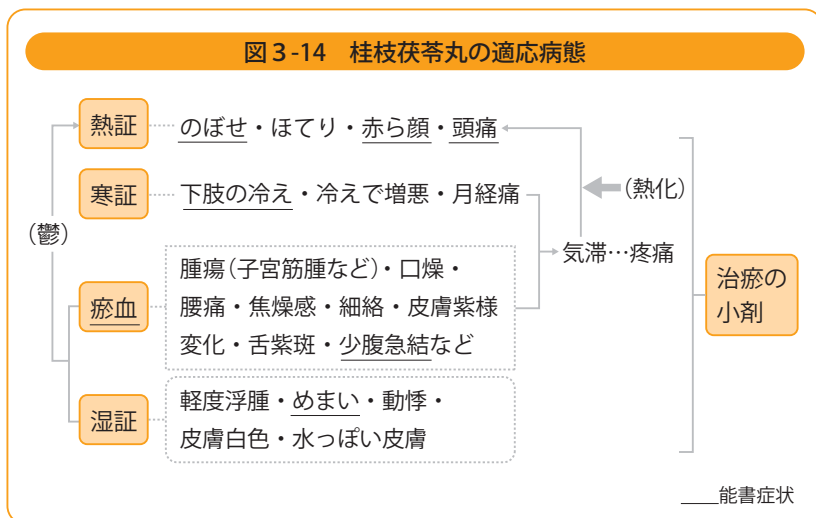
①桂枝：気を温め鼓舞し気をめぐらせる効能があり、寒性の気滞に使用される。

②茯苓：体内の病的水分を除く効能があり、痰飲の病症に使用される。

③牡丹皮・桃仁：牡丹皮で熱を冷まし、桃仁で血をめぐらせる。活血の生薬である。

④白芍薬：養血作用がある。滋養するため、血虚に使用される。止痛作用もある。

君薬の桂枝と茯苓の効能からすれば、本剤は気を温めめぐらせ（桂



枝), 湿を取る作用(茯苓)を中心とした方剤のように思える。しかし, 構成生薬の量は各等分であり, 本剤の典拠では瘀の治療方剤としている(図3-14)。瘀注とは有形の腫瘍であり, その病態は瘀血と痰飲, 気が結したものとされ, 特に瘀血の病態が重要となる文1・2。

だとすれば, 本剤は瘀血により醸し出された病態, 瘀血と関連する色々な病態の治療方剤と考えられよう。言い換えると, 瘀血に加え, 瘀血の結果出現した病態を治療するものといえる。具体的にいえば, 瘀血・寒証・熱証・湿証・気滞という病態に対応できる方剤である。気滞は寒証や瘀血によって出現したものであり, ほてりなどの熱証は気滞による熱化や瘀血・湿などが鬱して気の交流不利となったといった原因が考えられる。さらに構成生薬数は少なくかつその力量は強いとはいえず, 寒熱の偏りもはっきりしていない。これらが, 「治瘀の小剤」といわれるゆえんだといえよう。

本剤は, 寒証・熱証・湿証を伴う瘀血証を改善する。上半身ののぼせやほてり, 下半身の冷え・浮腫などがある瘀血証で, 腹部腫瘍(瘀

**注**，子宮筋腫など）によく使用される。瘀血に伴う種々の病態を治療するが，薬力はあまり強くない方剤といえ，これより「治瘀の小剤」といわれる。温め気をめぐらせ，痰飲を除き，血を軽度に滋養し，瘀血を除く効能がある。

**注** <sup>ちよう</sup>癥：「徴」とは，はっきりとした明らかな兆しの意味。癥とは，腹部の難治性の硬度のある腫瘍を指す。積とほぼ同義。

**文1** 吉田和裕ほか：鍼灸治療により消退した卵巣嚢腫の一例．漢方の臨床 57 (8)：1327-1337，2010

**文2** 三浦於菟：腹部腫瘍の東洋医学的解釈．東静漢方研究室 6 (4)：10-23，1983

**文3** 三浦於菟：濟世医録 20. “治瘀の小剤” 桂枝茯苓丸の症例．東静漢方研究室 34 (1)：28-31，2011

### 症例 23 | 妨げ瘀血の症例——花粉症に活血剤の併用

**症例**：41歳，男性。

**主訴**：鼻汁

**現病歴**：10年ほど前から花粉症。2月下旬から早朝の水様性透明鼻汁，咽頭痛，眼瞼結膜掻痒感，顔面のほてり，下肢の冷感，冷飲を好む口渇が出現した。易感冒症で汗をかきやすく，夕方に下肢に軽度浮腫がある。その他に，軽度の胃弱があり過食で下痢となる。X年4月X日初診。

**既往歴**：IgA腎症で経過観察中

**現症**：175cm，69kg。白色皮膚，淡紫色舌，齒痕，白色軽度膩苔，数脈，眼球結膜充血，咽頭部発赤。

**経過**：小青竜湯エキス 5.0g 合清上防風湯エキス 5.0g（分2 朝・夕食前）を1週間投与するも，鼻汁は軽度改善のみであった。そこで桂枝茯苓丸 4.0g を合方したところ，鼻汁は著明に改善し，顔面のほてりや下肢の冷感も改善をみた。